OKINAWA CHARITY '84

DOKKYO UNIV. MANDOLIN CLUB

獨協大学校歌

作詞　小池辰雄
作曲　萬沢　遼

一、天の原ふりさけ見つつ
さし昇る陽を胸に抱きて
朝風薫る大地を歩み、
浩然の気をつねに養う
獨協学徒の英姿を見よや。
　法を遵りて自由あり、
　学を修めて人ぞある。
ああ建学の精神は高し。

二、関東は草加のほとり
沢に白鷺、野べには蓮華。
柳の影に筑波は応え、
桜の梢に富士の峯映えて、
城と聳ゆるわが獨協に
　天地を貫く師道あり
　昴星燦たる友誼あり。
ああ協同の精神は深し。

三、万国の文化の粋を
大和心に豊かに集め、
独創妙えなる業を進めて、
世界に雄飛の大志を抱く
わが獨協の学風ゆかし。
　真理を愛して生命あり、
　天に即して大和あり。
ああ創造の精神は広し。

獨協大学創立20周年記念

獨協大学マンドリンクラブ

沖 縄 演 奏 会

昭和59年９月８日(土)
沖縄県労働福祉会館大ホール

主催／獨協大学学友会文化会マンドリンクラブ　協賛／平凡社
後援／那覇市社会福祉協議会・沖縄タイムス・~~沖縄~~琉球新報
　　　ＲＢＣ琉球放送・ラジオ沖縄・ＮＨＫ沖縄放送局・極東放送
　　　沖縄テレビ・獨協大学同窓会
協力／琉球大学ギターアンサンブル

部長挨拶　　**横 山　潤**

本日は，獨協大学マンドリンクラブの演奏会に御来場下さいまして，誠に有難うございます。

獨協学園は，昨年，創立百周年を迎え，また，大学も本年をもちまして創立二十周年のはこびとなりました。当クラブは大学創立以来，年２回の定期演奏会等を通じて，数多くの実績を残してまいりましたが，ここに沖縄の皆様方の前で日頃の成果を御披露できることは，私達にとって，この上ない喜びであります。

部員一同，今宵の演奏会のため修練を重ねて参りましたが，不十分なところが多々あろうかと思います。この点，どうぞ御批判下さいまして，私共に新たな飛躍をとげる機会を与えて下さいますようお願い申し上げます。

主将挨拶　　**宮 川　務**

本日は，お忙しい中，獨協大学マンドリンクラブ沖縄演奏会に御来場頂き誠にありがとうございます。

獨協大学は，今年で二十周年を迎えた，まだ歴史の浅い大学ですが，その母体である獨逸学協会学校は，明治十四年に成立し，昨年百周年を迎えました。

私共のクラブは，昭和四十五年，群馬県前橋市での第一回地方演奏会を皮切りに，北は北海道から南は九州博多まで全国各地で演奏会を行って参りました。今年は，本学創立二十周年の記念演奏会と致しまして，当地沖縄で開催することになりました。

また今回，曲目にギター合奏，弦楽をバックにした二つのマンドリンのコンチェルト，琉球民謡などといった新しい試みも取り入れて見ました。

では，今宵は心ゆくまで獨協の若い音をお楽しみ下さい。

最後に，本日の演奏会を開催するにあたり御協力して下さいました諸先輩方，関係各方面の皆様に，この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

Program

■ I 部

指揮：湯　本　英　一

1．"An der schönen blauen Donau" Walzer OP. 314 —— Johann Strauss
（円舞曲「美しく青きドナウ」）

2．Intermezzo from "Cavalleria Rusticana" —— Pietro Mascagni
（歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲）

3．Impressioni d' Oriente Seconda Suite OP.414 —— Amedeo Amadei
（東洋の印象 第2組曲）　中野二郎 編曲
- I．Canto d' Amore e Fantasia（愛の歌と幻想曲）
- II．Crepuscolo（黄昏）
- III．Nel Bazar（市場にて）

■ II 部

1．Tango "España" No.2 —— Isaac Manuel Francisco Albénis
（組曲「スペイン」第2番タンゴ）

2．Menuet～"L' Arlésienne" Suite No.2 —— Georges Bizet
（「アルルの女」第2組曲よりメヌエット）

指揮：加　藤　正　智

3．Concerto in Sol Maggiore —— Antonio Vivaldi
per 2 Mandolini, Archi e Organo
（二つのマンドリンの為の協奏曲ト長調）

■ III 部

指揮：加　藤　正　智

1．八重山狂詩曲 —— 川　瀬　憲　司

2．芭　蕉　布 —— 普久原　恒　勇

3．琉球わらべ歌〈メドレー〉
● あかな～いったーあんまーまーかいが～小禄豊見城～花ぬ風車～耳切り坊主～てぃんさぐぬ花～じんじん～月ぬ美しゃ～あかな

■ IV 部

指揮：加　藤　正　智

1．España Cañi —— Pascual Marguina
（エスパニア・カーニー）　松本　譲 編曲

2．マンドリンオーケストラのための"じょんがら" —— 藤　掛　廣　幸

3．交響詩「北夷」 —— 鈴　木　静　一

■ " An der schonen blauen Donau " Walzer OP. 314 ……… Johann Strauss
（円舞曲「美しく青きドナウ」）

円舞曲王：ヨハン―シュトラウスの作った多くのすぐれた円舞曲中での傑作で，ウィーン型円舞曲の代表作である。作曲当時は実際に舞踏場で踊られる曲であったが，今は演奏会の曲目に常に顔を出している。

序奏は，ゆるやかに$\frac{6}{8}$拍子で出て第1マンドラが主旋律の断片を予告する。この断片はいろいろ形を変えて繰り返されるが，やがて$\frac{3}{4}$拍子，円舞曲の速度になって円舞曲の導入部に入り，それが弱奏に消えるといよいよ主部に入る。円舞曲第1は，ゆうゆうと雅やかな調べである。3部分形式でその中間部は躍る様な動きである。第2はさわやかな夏の風の中に踊る乙女達の姿の様な感じである。中間部が抒情的で美しい。第3は明るく強く元気のよい調べ。第4は情緒にあふれ，第5は，雄大なクライマックスで，Coda II からは今までの，主な旋律がつなげられて出てくる。終りに主旋律を低徊的に繰り返し，やがて激しく強く急速に終る。

■ Intermezzo from " Cavalleria Rusticana " ……… Pietro Mascagni
（歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲）

「カヴァレリア・ルスティカーナ」は直訳すると「いなかの騎士道」という意味で，このオペラは，19世紀のシチリア島を舞台に，村娘のサントゥッツァ，兵隊帰りのトゥリドウ，馬車屋のアルフィオと彼の浮気な女房ローラの色恋のスキャンダルを扱っている。

「間奏曲」は，1幕物のこのオペラの中頃に，人影のまったく無い舞台を前に演奏される音楽で，この宗教的な清らかさと静けさに満ちたしらべが，それまでの激しく盛り上がった空気を静めて，見事に無台転換の役目を果すのである。

■ Impressioni d ' Oriente Seconda Suite OP. 414 ……… Amedeo Amadei
（東洋の印象第2組曲）　　中野二郎　編曲

1866年12月9日，イタリア・ローレトに生まれ，1935年6月16日，トリーノに逝いた作曲家，管弦楽指揮者。初め父，ロベルト（1840～1913）に学び，その後ボローニアのアカデミア，フィラルモニカを卒業，オルガニスト又合唱指揮者として活躍したが，1889年歩兵第73連隊楽長を拝命以来，各地軍楽隊長を歴任して，退役後は，トリーノに定住して，指揮者として又教授として音楽会各方面に尽くした。作品も多岐に亘り数種のオペレッタ管弦楽曲，吹奏楽曲，歌曲，ピアノ曲，室内楽曲，マンドリン合奏曲を含めて約500曲がある。

「東洋の印象」は第一と第二の二つがあり，本曲は第一の後すぐに作られた様である。1楽章は，愛の歌と幻想曲，2は黄昏，3は，市場にてとなっている。東洋とはイタリアでは地中海を隔てた回教圏の国々を指すもので，この異国情緒が作曲家の好んだ，素材となった。本曲は，単調なリズムと独持な，ムーア風旋律が魅力となっている。愛の歌と幻想曲はペルシャの歌とアラブ風の踊り，黄昏は，回教僧侶の祈禱，市場にては，郷愁の思いをはさんだ市場の喧噪を描いている。

■ Tango " España " No. 2 ………………………………………… Isaac Manuel Francisco Albénis
（組曲「スペイン」第２番 タンゴ）

作者イサーク・アルベニス（1860－1909）は，エンリケ・グラナドスと並びスペイン民俗学派を代表する作曲家である。彼のピアノ曲「アストウーリアス」「グラナダ」「コルドバ」「入江のざわめき」「朱色の塔」等，多くの作品はギター独奏曲に編作され，ギターの“名曲”としても有名である。

「タンゴ」は，彼が30歳の頃に作曲したピアノ曲集，組曲「エスパーニャ」（全６曲）の第２番で，アルベニスの全作品中でも最も広く知られ愛されてきた小曲である。

ハバネラ（2/4，♪.♬♫）風のリズム，旋律の南国風な甘美さ，そして随所に見られるなめらかな転調の妙味が，この曲を非凡で魅力的な小品としている。

■ Menuet ～ " L' Arlésienne " Suite No. 2 ………………………………………… Georges Bizet
（「アルルの女」第２組曲よりメヌエット）

作者ジョルジュ・ビゼー（1838～1875）は，後期ロマン派の中でも，数少ない南国的かつ庶民的な“フランス人気質”を備えた作曲家である。

幼少期より音楽の天才と謳われ，９歳でパリー音楽院に入学，あらゆる褒賞をかちえた後，19歳でローマ賞を得ている。

「アルルの女」は，フランスの文豪ドーデーの同名の戯曲の劇中音楽としてビゼーが作曲した27曲の管弦楽曲（６曲は合唱付）の中から，彼が４曲選んで演奏会用に改編したのが第一組曲，後に彼の親友エルネスト・ギロー（指揮者・作曲家）が４曲選び編曲したのが第２組曲と呼ばれている。

メヌエットは，原作の劇中音楽にはなく，ギローがビゼーの歌劇「美しきペルトの娘」からとって，第２組曲に入れた曲である。

第１組曲の（第１）メヌエットが田園的素朴さをもっているのに対し，この第２メヌエットは優美で宮廷的・女性的なニュアンスを湛えている。

■ Concerto in Sol Maggiore per 2 Mandolin , Archi e Organo ………………………… Antonio Vivaldi
（二つのマンドリンの為の協奏曲ト長調）

この協奏曲は死の前年にあたる1940年に編まれた，「協奏曲集」に入っている。ヴィヴァルディの時代には，オーケストラの中でマンドリンを使用することは，さほど新しい試みではなかったようである。マンドリンは音量の小さい楽器で，まともに扱えばその音量は弦楽合奏の中に埋もれてしまうが，ヴィヴァルディは誠にみごとにマンドリンの透明な美しさを引き出し，きわだたせている。ことに第二楽章でヴァイオリンのピッチカートを伴奏に，２つのマンドリンが歌い合う旋律の美しさは，聴きどころである。

こうした魅力的なマンドリン曲をヴァイオリンの名手だったヴィヴァルディが書き上げた大きな理由の１つに，この二つの楽器の調弦が同じであったことが上げられるかもしれない。

■ 八重山狂詩曲……川 瀬 惠 司

1975年，東海学生マンドリン連盟の委嘱で作曲されたこの作品は，沖縄の八重山諸島に伝承されている民謡と沖縄独特の旋法を，ファンタジックで自由な型式の中に織り込んで作曲されている。曲は，11小節からなる序から始まる。マンドリンの高い音をバックに，沖縄旋法を素材とした旋律が，マンドチェロコントラバスによって，ゆっくりしたテンポで現れる。この後，マンドラのソロがオブリガード的な旋律を奏し，この部分に変化をつけている。序が終わると，愛する男の牛に対する愛情を歌った「富崎野ぬ牛山まユンタ」の旋律をテーマにして作曲されている。この旋律が2度マンドリンで奏された後，8分の6拍子に変わり，マンドリンの軽快なリズムにのってマンドラとマンドチェロが「富崎野ぬ牛山まユンタ」の変奏テーマを奏する。このテーマは，この部分の重要な旋律になっている。次はギターの分散和音に成り，まず新年の旅立ちの歌「浦舟ユンタ」から始まり，「安里屋ユンタ」つづいて家屋新築城の祝い歌「松加根ユンタ」の3つの個性豊かな民謡がメドレー風に流れる。この後「松加根ユンタ」の最初の部分をテーマに対位法の技法で曲を盛り上げ終結部に至る。終結部は，沖縄民謡の代表的な曲「安里屋ユンタ」が再度現れ，壮大でエネルギッシュに曲を締めくくっている。

■ España Cañi……Pascual Marquina
(エスパニア・カーニー)　松 本　讓 編曲

正しくは「エスパニア・カニュイー」と発音するのだが，我国では「エスパニア・カーニー」で通っている。「スペインのジプシー」の意味で，スペインのパソ・ドブレの代表的な曲である。欧米では Spanish Gipsy Danse の題で知られている。

本曲は服部正氏の編曲によるものが一般的であるが，短くて物足りないので，キューバのエルネスト・レクオーナの「マラゲーニャ」の一節を流用してファンタジー風に編曲した。又，リズムも4分の2拍子であるが，ところどころに4分の3拍子を入れ変化をつけたつもりである。

エドムンド・ロス，マンドバーニー等のビッグ・バンドのレコードが多く出ており，気楽に聴いてほしいものである。

(松本　讓記)

■ マンドリンオーケストラのための“じょんがら”……藤 掛 廣 幸

以前からマンドリンの“トレモロによってうたを歌う”ということに少なからぬ抵抗感があり，マンドリンという楽器本来の機能に基づいた曲を書いてみたいと思っていました。そんな折，高橋竹山の津軽三味線の演奏に接し，昔からのスタイルの単なる保存などというものではなく，まぎれもなく現代に生きている音楽，脈々と流れる血をもった音楽を感じてとても感激しました。三味線そのものとマンドリンとは，全然別のものだけれど，打楽器的な発音原理に共通点を見い出して，ジャズにおけるアドリブの要素を加味して出来上がったのがこの曲です。もちろん，これは三味線曲でもなく，ジャズでもなく，明らかに“マンドリンオーケストラのための曲”です。

(藤掛廣幸記)

■ 交響詩「北夷」……鈴木静一

私は濃い霧の中で初めて北海道の土を踏んだ。ここは本土から切り離されたかっての蝦夷なのだ。だが，灰色の霧は，意地悪く天地をおおいかくしている。汽車は，のろのろ走りだした。風雪の厳しさを物語る板囲い。時には，かくまき姿の女の人も見えるが，それも濃い霧にぼかされたまま。

この楽詩は憂うつな霧の描写で始まる。Mandolin 群の割り切れない不協和音の持続。時々“しずく„を思わせる Guitar の点滴が僅かに単調を破るだけ。

そのころの私が北海道に対し抱いていたイメージ（音楽的の）といえば，忍路高島の追分だけだった。そのモティヴが，ちらと浮かんで消える。“見たい„気持である。

遅い汽車は，やがて，背の低いいたどりが目に付く山腹を，けだるそうに這い登って行く。上るにつれ，霧はいくらか薄れかけるが，すぐまた濃くなる。単調な不協和音の連続。

暗い霧の底で，黒い水面が鈍く光る。“池かな？„がんび（白樺）らしい樹幹が，半分だけ覗く。高原らしい。気づくと，汽車は少しずつ速度を増してゆくらしい。そして執拗な霧は，やっと動き出した。速くなる汽車。薄れる霧。期待が“追分„のモティヴを膨らます。晴れる！　ぐんぐん晴れる。厭らしい霧からの脱出だ！。汽車は快よい速度で高原から平地に上り下り，私の眼下には，広い海面が拡がった。

だが！　一瞬，私は戸惑う。“ここは一体どこなのだ!?„藍さより蒼黒と感じる海の遥か彼方には，たとえば，北アルプスの中核部の連山を，沈めたように，岩峰をつらねる岬が見えた。スカンジナビア辺りの色彩と光。中央露西亜を思わせる家の形。海と反対側には，内地だと，よほど高く登らなければ見られないとど松の林。“追分„で想像した景観は，どこにも見当らない。あるのは，雄大で原始的な山と海だけ。

ここは北欧なのか？　シベリアなのか？。私は，やがて汽車が停った駅で，ひら仮名で書かれた駅名を見るまで，戸惑い続けた。正しくここは北海道なのだ！。これが蝦夷なのだ！。曲は爆発するよう北夷の主題を高らかに歌う！。

私の北海道の第一印象は，異国風（エキゾティック）の一言に尽きる。そしてそれ以後，私を北夷の大自然の魅惑につかれた男にしてしまったのだ。

曲は，この歓びを感動的に歌い上げ，やがて静かになる。単調な節奏（リズム）を Guitar がくり返し，第二主題が Oboe で奏される。アイヌ古謡“美しきアイヌの乙女„である。この部分は，衰滅の一途を辿る，原住民の衰感を物語る。これは発展し，展開し，冒頭に現われた追分風のモティヴを引き出す。この場合の“追分„は，和人（大和民族）の侵入を意味する。これは悲劇的なクライマックスを築き，再びアイヌの古謡があらわれ曲は静かになるが，すぐ第一主題のモティヴが Mandola にあらわれる。これからこのふたつのモティヴは互に呼び交し影響し合い第一主題の復帰を暗示しながら次第にたかまっていく。

終局は再び北夷の大自然讃歌であるが，ここで主題は始めに呈示されたのより五度高く，（すなわちこの曲の原音程 A.magiore）となり，Piano の速い分散和音に色どられ，北夷に憑かれた男の歓喜を力いっぱい絶叫し，この楽詩は終る。

（鈴木　静一記）

あ　か　な

あかなよ　あかな　（アカナよ　アカナ）
まーかい　いーちゅがあかな　（どこに行くのアカナ）

西ぬ海かい　（西の海に）
ガニぐゎ取いが　（カニをとりに）
わんねーいーちゅん　（私は行くのです）

ガニぐゎ取てぃぬすが　（カニを取ってどうするの）
わー　うないに　くぃゆん　（私の娚にあげるのだよ）
いゃー　うないや　たーやが　（お前の娚は誰だ）
じゅうぐや　うちちゅ　（十五夜お月様だよ）

【解説】

「あかな」がなんであったかは、このわらべうたを歌った子供達に聞いてみなければ分らないのですが、池宮氏は「河童と同じように、想像上の動物、全身に赤毛を負った、小人だとのことです。河童にもっとも近いのはカムローというものだそうです」と説明しています。

そして『子供達は、遊びの帰りの途すがら、夕焼空を見ながら、この歌を歌う」のであるとすれば、「あかな」は想像上の動物としての「あかな」よりは、むしろ、「夕焼け」そのものが、「あかな」であり、西の空が真赤になっているのを子供達は、〈おどろき〉と同時に親しく〈呼びかけ〉ているのではないかとも考えられます。子供達の無限の想像力には驚嘆するばかりです。

いったーあんまー　まーかいが

いったーあんまー

まーかいが

べーべーぬ草かいが

べーべーぬまさぐさや

畑ぬ　わかみんな

【解説】

「お前のお母さん、どこへいったの」

「小山羊にやる草を刈りにいったの」

「そうかい、小山羊の一番おいしいといって喜ぶ草は野原にあるへコベだよね」

子供たちの語らいがそのまま歌になったもので、これ程歌われた童唄もあるまい。

べーべーは小山羊の意の幼児語。ほかにも牛はウーシーモーモー、うぐいすがチョッチョー、ひばりをチンチナー、月あるいは仏壇をトートーメーなどといったが、すでに死語となっている。例えば、用をたしてお尻をふいてもらう時、「はい！モーモーしぇー」（さあ！牛のようにお尻を出して）といわれて、四ッ這いをするようにお尻を突き出したものだが、これも時の彼方の感傷でしかない。

あんまー（母）、主（父）、タンメー（祖父）、ハーメー（祖母）、やっちー、あるいはアフィー（兄）、シミー（姉）、ウンチュー（伯父）、アバー（伯母）みんなみんなつかしい言葉たち……。

小禄豊見城

小禄　豊見城　垣花三村

三村ぬ　あんぐゎー達が

揃とーてぃ　布織い話

綾まみぐなよー　完かんじゅんどー

【解説】

小禄、豊見城、垣の花は昔、儀間村といい、領主儀間真常の奨励で琉球絣の産地であった。絣には経雲（ヌチブムー）、銭珠（ジンダマー）、敷瓦（シチガワラー）、四角（ユカドゥー）、番匠（バンジョウ）、ワカサー、ゴー廻いー、亀ぬ甲、くじり格子などがあって、これを糸筋（あや）違（まみかり）えず乙女を「ちゅら布織やー」（いい布を織る者）といって嫁のもらいてあまたであった。この唄は女の子が二人向き合って片手をあるいは双手をたがいに打合わせながら遊ぶ、いわゆる「セッセッセ」に似た遊戯歌である。

花ぬ風車

花ぬ風車やスリ

風ちりてぃ廻る

（囃子）チントゥンテントゥン

マンチンタン

ウネタリスヌメー

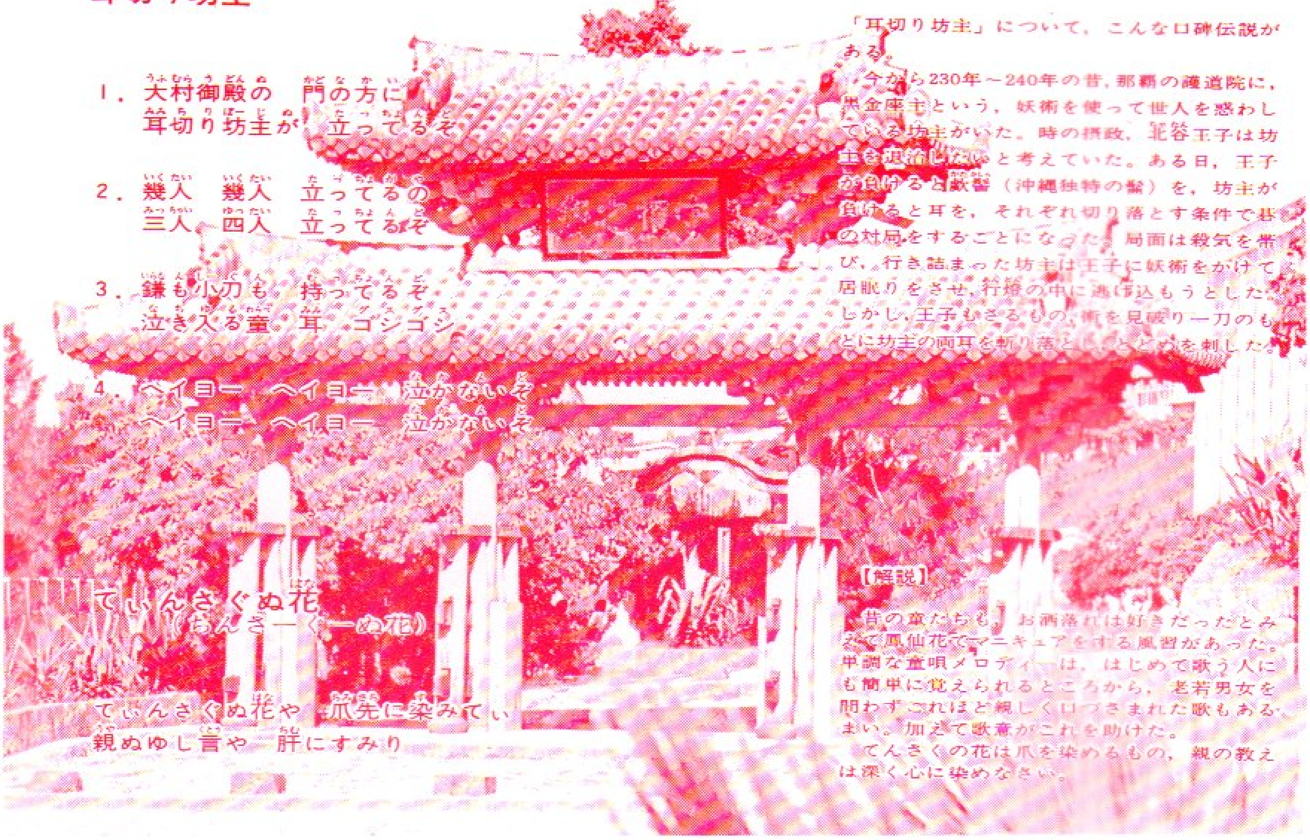
ウミカキレー

【解説】

代表的な童唄であるが、ここではカジマヤーについて記そう。

人間いつかは老境に入るもので九十七歳の生年祝にはカジマヤーの祝といって翁嫗は、まず風車を持って遊ぶる。つまり、九十七歳からは子供に生まれかわるというのである。カジマヤーはその意味で目出度いものとされる。

組踊「女物狂」の亀松、「忠孝婦人」の大川お座子、いずれも幼い風車をかざして遊びながらうたう。



耳切り坊主

1. 大村御殿の　門の方に
   耳切り坊主が　立ってるぞ

2. 幾人　幾人　立ってるの
   三人　四人　立ってるぞ

3. 鎌も小刀も　持ってるぞ
   泣き入る童　耳　ゴシゴシ

4. ヘイヨー　ヘイヨー　泣かないぞ
   ヘイヨー　ヘイヨー　泣かないぞ

【解説】

「耳切り坊主」について，こんな口碑伝説がある。

今から230年～240年の昔，那覇の護道院に，黒金座主という，妖術を使って世人を惑わしている坊主がいた。時の摂政，北谷王子は坊主を退治したいと考えていた。ある日，王子が負けると欹髻（沖縄独特の髷）を，坊主が負けると耳を，それぞれ切り落とす条件で碁の対局をすることになった。局面は殺気を帯び，行き詰まった坊主は王子に妖術をかけて居眠りをさせ，行燈の中に逃げ込もうとした。しかし，王子もさるもの，術を見破り一刀のもとに坊主の両耳を斬り落とし，とどめを刺した。

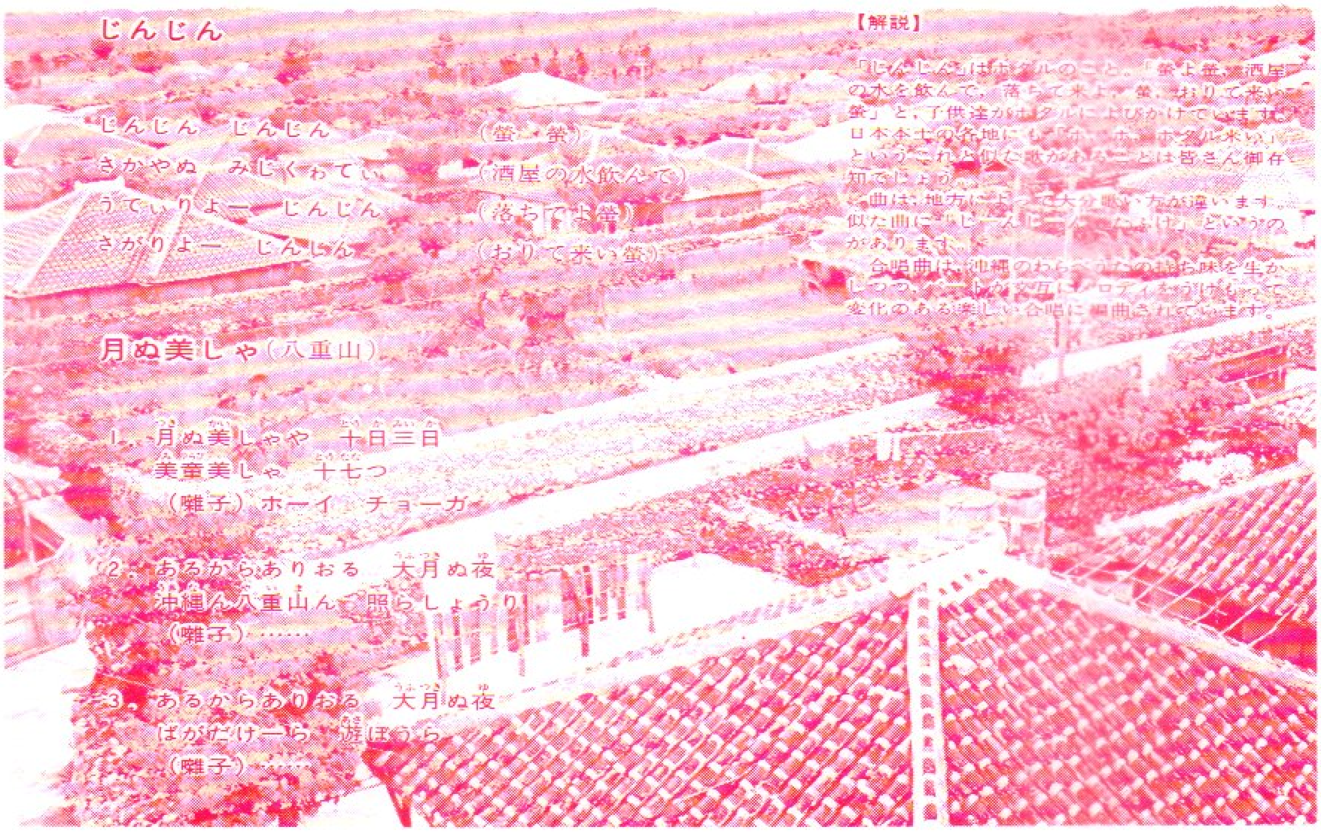
てぃんさぐぬ花
（ちんさーぐーぬ花）

てぃんさぐぬ花や　爪先に染みてぃ
親ぬゆし言や　肝にすみり

【解説】

昔の童たちも，お洒落れは好きだったとみえて鳳仙花でマニキュアをする風習があった。単調な童唄メロディーは，はじめて歌う人にも簡単に覚えられるところから，老若男女を問わずこれほど親しく口ずさまれた歌もあるまい。加えて歌意がこれを助けた。

てんさくの花は爪を染めるもの，親の教えは深く心に染めなさい。



じんじん

じんじん　じんじん	（蛍　蛍）
さかやぬ　みじくわてぃ	（酒屋の水飲んで）
うてぃりよー　じんじん	（落ちて来よ蛍）
さがりよー　じんじん	（おりて来い蛍）

【解説】

「じんじん」はホタルのこと。「蛍よ蛍，酒屋の水を飲んで，落ちて来よ，蛍，おりて来い，蛍」と，子供達がホタルによびかけています。日本本土の各地にも「ホー，ホー，ホタル来い」というこれと似た歌があることは皆さん御存知でしょう。

曲は，地方によって大分歌い方が違います。似た曲に「じーんじーん……なふけ」というのがあります。

合唱曲は，沖縄のわらべうたの持ち味を生かしつつ，パートが交互にメロディを引きついで変化のある楽しい合唱に編曲されています。

月ぬ美しゃ（八重山）

1. 月ぬ美しゃや　十日三日
   美童美しゃ　十七つ
   （囃子）ホーイ　チョーガ

2. あるからありおる　大月ぬ夜
   沖縄ん八重山ん　照らしょうり
   （囃子）……

3. あるからありおる　大月ぬ夜
   ばがだけーら　遊ぼうら
   （囃子）……

マンドリンの歴史

マンドリンは相当古い歴史をもっている。モーツァルトが歌劇「ドン・ジョバンニ」のアリアの伴奏にマンドリンを使っているし，ベートーヴェンが若い時代にマンドリンとチェンバロ（ピアノの前身）のためのソナティナほか数曲を作曲している。その時代のマンドリンは，形は現代のマンドリンと同じで，西洋梨を縦に半分にし，それに竿をつけたような格好だが，弦はガット（羊の腸を撚りあげた，いわゆる羊腸弦）で４本あった。

弦が鋼鉄（スチール製）複弦になったのは1850年前後だから，マンドリンが今日のような姿を整えてから，まだ100年そこそこなのである。ナポリのパスカーレ・ビナチァ（1806～1882）が現代のマンドリンの創創製者である。

甥にあたるカルロ・ムニエル（1859～1911）がすばらしい演奏家で，しかもすぐれた作曲家でもあり，いわゆる今日のマンドリン音楽を築き上げたのであった。ムニエルと同時代にシルビオ・ラニエリ，ローラン・ファンタウシー，少しおくれてラファーエレ・カラーチェ，マリオ・マチョッキらが輩出し，マンドリン音楽の隆盛を来たした。いずれもイタリア生れだが，ラニエリ，ファンタウシー，マチョッキなどはフランス，ベルギーなど外国で活躍し，名を成している。

マンドリンはイタリアに生れ，イタリアで育った。そういう意味でマンドリンはイタリアの民族楽器といえるし，その音楽は非常にイタリア的である。例えばイタリアのオペラがドイツの歌劇とちがって，理屈ぬきに明るく楽しく美しいように，マンドリン音楽は澄んだ碧い空，緑の木立，色あざやかな花々，香り高く甘い果実など，一概に南国的でロマンチックな特徴をもっている。ベニスの船唄やナポリのカンツォーネにマンドリンは欠くことのできない伴奏楽器であった。

しかし，マンドリンはその後陸つづきにフランスに入り，ドイツ，オランダに普及した。フランスのマンドリン音楽はイタリア風だが，オランダになると色合いが余程ちがい，ドイツの，ことに最近のドイツのマンドリン音楽はずっとちがってきている。イタリアのマンドリン音楽では繊細なトレモロと歯切れの良いスタッカートが特色だが，ドイツの現代マンドリン音楽ではトレモロが尊重されず，スタッカートこそマンドリンの本質的なものとして，スタッカートを巧みに生かしており，その点ではイタリアのそれとは対照的である。

マンドリンが日本に渡来してからようやく60年の歴史が流れたが，当時は全くイタリアの模倣であった。今でもその範ちゅうから抜け切れないでいる感がある。しかし日本ではマンドリンを日本に定着するために，マンドリンという器をかり，その中に日本の味を盛ろうという努力が，武井守成，中野二郎らによってはじめられ，服部正，鈴木静一らにうけつがれて今日に及んでいる。それがみのって今日の日本のマンドリン界を隆盛に導いたともいえる。それにイタリアはじめヨーロッパでは一時ジャズに押しまくられた感があったが，日本のマンドリン界はそんなピンチに襲われることもなく，近来ますます隆盛をきわめてきた感があるのは，学校ならびに職場の，いわば若い時代に享受されているからであろう。

（明治大学長野演奏会パンフレットより転載）

○沖縄マンドリンアンサンブル

昭和51年秋結成，翌昭和52年６月那覇市民会館に於き第１回演奏会を開催，昭和57年11月には第６回定期演奏会を那覇市民会館と沖縄市民会館の二ケ所で開催されました。

現在，約30名の楽員のみなさんは，沖縄を中心にプレクトラム音楽の普及と向上に意欲的に取り組んでおられ，音楽を通して心の和を広げるため日々活動をつづけておられます。

そして，今回私達の演奏会に忙しい仕事の合間をぬってⅣ部のステージに出演して下さることになりました。沖縄唯一の社会人団体で，名実とも沖縄No.１である沖縄マンドリンアンサンブルのみなさんと共演できることを部員一同光栄に思っております。

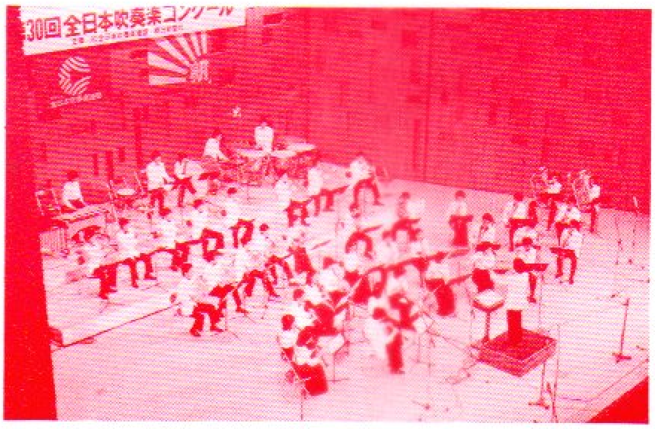
○琉球大学バロック合奏団

昭和50年創立で今年９年目を迎えられます。定期演奏会は毎年行なわれており，約40名の部員のみなさんは顧問の中村透氏，指揮者の糸数武博氏のもと，音楽に打ち込む情熱と協調の輪をモットーに，日夜厳しい練習に励んでおられます。

今回，マンドリン協奏曲ト長調において，弦楽をバックに演奏するのは，私共のクラブにとって初の試みであり，このような機会を与えて下さった，琉球大学バロック合奏団のみなさんにとても感謝しております。

○琉球大学吹奏楽部

昭和25年創立，今年で34年目を迎えられる伝統あるクラブです。コンテスト，コンクールにも数々出演しておられ近年３年間を取り上げるだけでも，昭和57年10月全日本吹奏楽コンクール全国大会銅賞受賞，昭和59年２月アンサンブルコンテスト九州大会金賞受賞，同年３月アンサンブルコンテスト全国大会金賞受賞と数々の賞を受けておられます。また，演奏旅行も昭和57年３月に宮古島，昭和58年７月には石垣島とさかんに行われており，部員のみなさんは，音楽をほんとうに楽しみながら，それぞれに目標を持ち真剣に練習に取り組んでおられます。



管パートのない私共マンドリンクラブを今宵のステージでは，大いに盛り上げ助けていただきます。

●メンバー紹介

指揮

加 藤 正 智（独4　埼玉　大宮北高）
湯 本 英 一（仏3　埼玉　上尾東高）

コンサートマスター

小野沢 富 生（英4　群馬　藤岡高）
城 戸 誠一郎（英3　東京　八王子東高）

Mandolin 1st

◎小野沢 富 生（英4　群馬　藤岡高）
○城 戸 誠一郎（英3　東京　八王子東高）
加 越 敬 子（英4　北海道　室蘭栄高）
久保埜 美 恵（英3　群馬　太田女子高）
坂 本 朝 子（英3　神奈川　横浜東高）
服 部 郁 子（英3　茨城　藤代高）
秋 山 直 樹（営2　東京　成城高）
中 山 元 子（マンドリンアンサンブル）

Mandolin 2nd

◎渡 辺 典 子（独4　茨城　水戸第三高）
○森 田 直 美（営3　埼玉　浦和南高）
桑 原 美奈子（独4　山梨　富士河口湖高）
田 端 宣 子（英3　埼玉　熊谷女子高）
寺 西 孝 子（済3　埼玉　越谷西高）
藤 野 雅 次（英3　三重　桑名西高）
吉 田 貴 子（英3　千葉　成田西高）
小 沼 久美子（英2　群馬　太田女子高）
高 橋 利 一（済2　東京　安田学園高）
畠 山 秀 之（独2　神奈川　川崎高）

◎　パートトップ
○　サブトップ

Mandola

◎武　 正 樹（英4　群馬　伊勢崎東高）
○東 山　 稔（営3　東京　独協高）
太 田 康 弘（営4　東京　高輪高）
山 本 裕 久（法4　兵庫　津名高）
朝 井 雅 也（済3　福井　丸岡高）
木 下 実奈子（英3　千葉　八千代高）
杉 田 美 佐（英3　栃木　大田原女子高）
伊 藤 あゆみ（英2　北海道　旭川北高）
林　 文 彦（仏2　北海道　帯広三条）
日 暮 理 加（独2　東京　香蘭女学校高）
比 嘉 三 廣（マンドリンアンサンブル）

Mandolon cello

◎蒲 生 哲 雄（英4　千葉　国府台高）
○西 村 昌 久（英3　静岡　浜松湖東高）
由 田　 健（法4　埼玉　三郷高）
天 笠 幸 男（法3　埼玉　桶川高）
五木田 基 雄（英3　北海道　夕張北高）
鈴 木 えり子（英2　山梨　甲府東高）
加 藤 正 智（独4　埼玉　大宮北高）
知 花 節 子（マンドリンアンサンブル）

Guitar

◎中 嶋 誠 司（営4　東京　日大豊山高）
○穴 田 正 道（英3　東京　墨田川高）
太 田 寿 康（済4　秋田　大館鳳鳴高）
鈴 木 直 子（営4　東京　白百合学園高）
伴 野 文 俊（済4　三重　高田高）
坂 田 百 世（仏3　茨城　境高）
三ツ井 清 明（法3　千葉　日大習志野高）
吉 田 明 生（済3　群馬　西邑楽高）
石 渡 啓 晋（英2　千葉　佐倉西高）
泉　 千 絵（独2　群馬　太田女子高）
金 丸 文 博（英2　山形　酒田南高）
高 橋 一 成（営2　神奈川　港北高）
滝 口 俊 行（営2　東京　安田学園高）
茅 根　 修（法2　千葉　柏南高）
宮 崎　 孝（済2　埼玉　越谷北高）
山 本 浩 志（英2　鳥取　八頭高）
小 嶺 幸 信（マンドリンアルサンブル）
小 嶺 泰 子（マンドリンアンサンブル）
中 山　 誠（マンドリンアンサンブル）

Contra bass

◎宮 川　 務（独4　新潟・新発田高）
○岡 野 一 雄（済3　群馬　太田高）
相 馬 陽 一（英2　埼玉　越谷北高）
湯 本 英 一（仏3　埼玉　上尾東高）

●メンバー紹介

司会
長谷川 浩 大 (賛助)

ステージマネージャー
谷 内 尚 樹 (14期OB)

Percussion
◎竹 内 義 一 (済2 東京 忍岡高)
松 尾 英 治 (吹奏楽部)
中 村 裕 子 (吹奏楽部)
上牟田 裕 子 (吹奏楽部)
中 山 美紀子 (吹奏楽部)

Flute
Ⅰ 山 下 良 江 (吹奏楽部)
Ⅱ 平 岡 まゆみ (吹奏楽部)

Oboe
笠 原 学 (吹奏楽部)

Clarinet
Ⅰ 元 山 素 江 (吹奏楽部)
Ⅱ 脇 屋 千鶴子 (吹奏楽部)

Fagotto
安富祖 貴 子 (吹奏楽部)

Violin 1st
高宮城 徹 夫 (バロック合奏団)
親 川 久美子 (バロック合奏団)
伊 波 忠 (バロック合奏団)
米 田 さつき (バロック合奏団)

Violin 2nd
山 城 尚 子 (バロック合奏団)
砂 川 恭 子 (バロック合奏団)
古波蔵 則 子 (バロック合奏団)
国 場 良 光 (バロック合奏団)

Viola
桐 野 弥 生 (バロック合奏団)
柴 田 悦 子 (バロック合奏団)

Violin cello
下 地 隆 (バロック合奏団)
井 上 貴 子 (バロック合奏団)

Contra bass
上 原 敦 (バロック合奏団)

Pianoforte
大 城 多香子 (バロック合奏団)
儀 間 弘 子 (バロック合奏団)

Cembalo
儀 間 弘 子 (バロック合奏団)

マンドリンアンサンブル —— 沖縄マンドリンアンサンブル
吹奏楽部 —— 琉球大学吹奏楽部
バロック合奏団 —— 琉球大学バロック合奏団

定期演奏会・地方演奏会の記録

定期演奏会

回	昭和.年.月.日	会場
1	42. 5. 26 27	校内 2-402
2	42. 12. 14	校内 2-402
3	43. 11. 30	図書館講堂
4	44. 5. 28	日本青年館
5	44. 11. 21	都市センターホール
6	45. 11. 27	共立講堂
7	46. 5. 19	虎ノ門ホール
8	46. 11. 20	文京公会堂
9	47. 5. 20	文京公会堂
10	47. 12. 4	文京公会堂
11	48. 5. 26	文京公会堂
12	48. 11. 23	文京公会堂
13	49. 5. 20	文京公会堂
14	49. 11. 24	文京公会堂
15	50. 5. 25	都市センターホール
16	50. 11. 23	文京公会堂
17	51. 5. 23	文京公会堂
18	51. 11. 20	荒川区民会館
19	52. 5. 29	都市センターホール
20	52. 11. 26	荒川区民会館
21	53. 5. 27	浅草公会堂
22	53. 11. 25	荒川区民会館
23	54. 6. 2	荒川区民会館
24	54. 12. 1	荒川区民会館
25	55. 5. 24	荒川区民会館
26	55. 11. 22	荒川区民会館
27	56. 5. 30	都市センターホール
28	56. 11. 27	荒川区民会館
29	57. 5. 29	荒川区民会館
30	57. 11. 26	杉並公会堂
31	58. 6. 4	浅草公会堂
32	58. 12. 18	浅草公会堂
33	59. 6. 2	浅草公会堂

地方演奏会

開催地	昭和.年.月.日	会場
前橋	45. 7. 18	群馬会館
札幌	47. 8. 26	札幌市民会館
京都	48. 3. 25	京都勤労会館
静岡	49. 8. 15	静岡公会堂
札幌	50. 8. 17	藤学園講堂
京都	51. 7. 12	大谷ホール
小樽・札幌	52. 8. 25 27	小樽市民会館・札幌共済ホール
名古屋	53. 7. 8	中電ホール
仙台	54. 8. 18	仙台市民会館
札幌	55. 8. 23	道新ホール
福岡	56. 7. 12	福岡市立少年文化会館
札幌	57. 8. 21	共済ホール
神戸	58. 9. 10	神戸国際会議場メインホール
長野	59. 3. 31	長野県県民文化会館中ホール

過去の演奏会作品別演奏回数ベスト 3

順位	曲目	回数	作曲家	
1	交響的前奏曲	7回	ボッタキアーリ	外国
2	メリアの平原にて	6回	マネンテ	
	マンドリニストの群	6回	ブラッコ	
3	序曲ニ短調	5回	ファルボ	
	今と昔	5回	マネンテ	
	歌劇「南の港にて」より間奏曲	5回	スピネルリ	
1	北夷	4回	鈴木静一	日本
	失われた都	4回	鈴木静一	
2	パストラーレ・ファンタジー	3回	藤掛廣幸	
3	トリプティーク	2回	芥川也寸志	
	舞踊風組曲	2回	久保田孝	
	雪の造型	2回	鈴木静一	

大学紹介

獨協大学は，昭和39年に従来の大学教育を根底から改革する目的で建学され，初代学長に就任された天野貞祐先生が，「大学は学問を通じての人間形成の場である」と建学精神を建てられた。この言葉は，大学生活を送る私達への呼びかけとして強く心をとらえています。

大学は，埼玉県草加市にあり，松原団地と隣接しています。現在，学生は，8584名で外国語（ドイツ語，英語，フランス語），経済（経済，経営），法律の３学部があります。

略　年　表

S．39．4．26	第１回入学式（獨協高校にて）
42．5．6	開学記念式典
44．	学園紛争
6.30~7.1	旧本部棟封鎖
11．15	機動隊入構
50．6．29	関　湊理事長にドイツ連邦共和国功労勲章大功労十字章が贈られる。
55．3．25	東京カテドラル聖マリア大聖堂に於ける天野先生学園葬
55．9	中央棟建設開始
58．10．21	エセックス大学との国際交流成る
58．10．22	獨協学園創立百周年記念式典
59．6	獨協大学創立二十周年記念式典

役員紹介

主　将	宮川　務	楽　譜	加越敬子
副　将	吉田明生		久保埜美恵
主席マネージャー	山本裕久		坂本朝子
外政マネージャー	朝井雅也		
内政マネージャー	鈴木直子	全マン委員	天笠幸男
	田端宣子		
会　計	太田康弘	資料部長	桑原美奈子
	五木田基雄		
書　記	坂田百世		
	服部郁子		

次回演奏会

- 琉球大学吹奏楽部　第18回定期演奏会　S59．12．21（金）
  開演6：30　於 那覇市民会館大ホール
- 琉球大学バロック合奏団　第9回定期演奏会　S60．1．19（土）
  開演7：00　於 那覇市民会館大ホール
- 琉球大学ギターアンサンブル　第20回定期演奏会　S59．11．17（土）
  開演6：30　於 労働福祉会館大ホール

獨協大学マンドリンクラブ第34回定期演奏会
S．59．12．1．（土）開演6：00　於 浅草公会堂

編集後記

あれも，これも載せたいと思っているうちに，整理がつかなくなり，当初計画したものとは内容面でかなり異なってしまい，まとまりのないパンフレットになってしまいました。しかし，今宵の演奏を10倍も100倍も楽しく聞いていただきたいという気持は変っておりません。このような未熟なパンフレットですが，１ページ，１ページ目を通して下されば幸いです。

最後に，このパンフレットの製作に御協力下さった皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。（ＦＢ）

沖縄演奏会パンフレット

発行日	昭和59年9月8日
発　行	獨協大学マンドリンクラブ
編　集	伴野文俊
	三ツ井清明
表紙デザイン	田端宣子

神谷医院

医師　神谷幸夫

○内科・外科・皮フ科
○リハビリテイション

〒902 沖縄県那覇市長田1丁目12番35号
TEL（0988）34-0128

知花歯科院

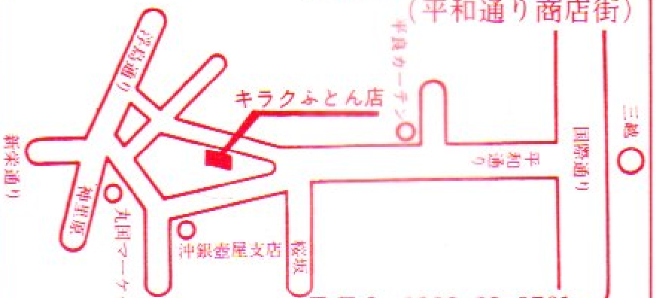
歯科医師知 花 朝 敏

首里支所向い　ＴＥＬ 84－2216

御婚礼用寝具・生活ファッション用品・ふとん打直し

キラクふとん店

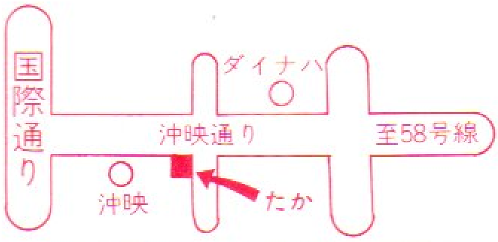
〒900 那覇市牧志3－5－19
（平和通り商店街）



ＴＥＬ 0988-63-3761

Fashion シューズ　**たか**

沖映通り ＴＥＬ 0988-66-0974



鮮度と品質で奉仕する

おおくらスーパー

首里当蔵町２丁目16番地
ＴＥＬ 86－8214

宜保産婦人科

宜 保 好 彦

那覇市久米２－29－13
ＴＥＬ 68－3328